

令和 8 年度 学力向上全体計画（決定版）

R8.7.30

学校名	墨田区立吾嬬第二中学校
校長名	佐藤 順一

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
【3年】昨年度春の調査と比較すると、社会科を除く全教科・観点で改善が見られた。 国語(知+4.5 思+2.8)数学(知+6.7 思+4.9)理科(知+10.0 思+6.9)英語(知+8.3 思+8.8) 【2年】昨年度冬の調査と比較すると、多くの教科・観点で改善が見られた。 国語(知+5.5 思+1.9) 社会(知+3.3 思+4.7) 数学(知+2.9 思+0.7) 理科(知+8.4 思+1.7) 英語(知+3.7 思-1.2)	学校全体の目標として「全教科・全観点において全国平均を上回る、又は現状から5ポイント以上向上すること」を掲げてきた。多くの教科・観点で成果が見られた一方、目標達成に至らない教科・観点も存在する。特に3年生社会科においては基礎的・基本的な知識の定着及び活用力の向上が課題である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
【3学年】 （生活面）先生と生徒間の人間関係に信頼感がある。あいさつを心掛け、自分の発言により人からの関心を集めることができる。〈つながる力〉 （学習面）他者の発表に対して関心を寄せながら授業を積極的に参加している。家庭での学習時間も確保している。〈つながる力・見つめる力〉 【2学年】 （生活面）友達関係で不安が少なく、人間関係構築のため自ら行動できる。困ったときは家の人や先生に相談できる。〈つながる力〉 （学習面）テストでまちがえたところを必ず復習し、ノートのとおり方を工夫したり、不思議に感じたことは自分から調べたりしている。〈見つめる力〉	【3学年】 （生活面）ものごとを行うときに、何をすべきか先を見通しながら自分なりに判断することに課題が見られる。〈見通す力〉 （学習面）最後まであきらめずに取り組むことを若干苦手になっている。粘り強さが課題。〈乗り越える力〉 【2学年】 （生活面）テレビや動画、インターネットをつかったり、ゲームをしたりしている時間が長い。お祭りやボランティア活動にやや消極的である。 〈見つめる力〉 （学習面）授業内で自分の意見を発表したり、先生からの質問に答える場面や、夢中になったり、勉強が面白いと思ったりする場面が少ない。〈見つめる力・乗り越える力〉

【1 学年】 (生活面) 先生からの指示を受け止め、やるべきことにしっかりと取り組む。人間関係が良好で自己肯定感も強い。先生への信頼が強い。〈見つめる力〉 (学習面) 授業規律を守りながらに集中して取り組む。間違えた問題をあとで丁寧に解きなおしたり、ノートを作るときも自分なりに工夫している。	【1 学年】 (生活面) 自分の体験を表現したり、正しいことをしっかりと主張していくことを若干苦手に行っている。成功体験を積み重ねる必要がある。スマホやゲームの時間が明らかに多い。〈つながる力〉〈乗り越える力〉 (学習面) 自分の意見を発表したり、友達に質問したりする機会を意図的計画的に作る必要がある。家庭学習も若干少ない。〈つながる力〉、〈乗り越える力〉
---	--

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・ 授業規律が定着し、生徒による授業評価も高い。R7 生徒アンケート「意欲的に授業に参加している」85.2% ・ 家庭学習ノートの取組が定着している。 ・ 教師と生徒、生徒相互の人間関係が安定している。 ・ 不登校生徒への支援体制が整っている。 ・ 保護者との情報共有が図られている。 ・ 行事等を通して生徒同士の支え合いの文化が育っている。 ・ 地域からの理解と協力を得ている。	・ 家庭学習の習慣をさらに定着させる必要がある。R7 保護者アンケート「子供はきちんと家庭学習に取り組んでいる」肯定的回答 59.5%、生徒アンケート「家庭学習で ipad を使用している」肯定的回答 61.9% ・ 保護者アンケート「学校はキャリア教育を十分に行っている」肯定的回答 71.0% ・ 個に応じた合理的配慮と学習支援の充実が求められる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 問題データベース等を活用した確認テストの実施

学年を主体として学校全体で確認テストを定期的に実施する。問題は学年教科担当が問題データベースドリル問題等から選定し、家庭学習で取り組めるようロイロで配信、又は紙で配布する。内容は、①授業で学習した内容の復習・定着 ②既習事項の振り返りの2つを基本とする。個人授業改善プランにも反映させとともに学校全体組織として12月の冬調査、来年度の春調査で確実に下記の目標を達成する。

(2) 家庭学習との連動

現在、各教科において授業内で示された課題等に家庭学習ノートで取り組ませている。これに加え、学年から出される課題にも自主的に取り組めるようにし、生徒が自ら学習内容や学習時間を計画的に選択できる環境を整える。生徒は自身の生活や学習の状況に応じて、一定期間単位で各教科及び学年からの課題に取り組むことで、主体的な家庭学習の定着を図る。また、家庭学習の内容を定期的な確認テストに関連付ける。進捗管理として学習記録カードを作成し、学習状況の可視化を行う。学年教員全員が、自身の教科問わず担当学年生徒の学習状況に関わる。

(3) 教員研修の充実 学び合い、自ら学ぶ。いつまでも教師として成長する

教員による研究授業及び互見授業を計画的に実施し、授業づくりに関する実践や工夫を共有する。単なる指導技術の共有にとどまらず、学習指導要領が求める資質・能力である知識及び技能・思考力、判断力、表現力・学びに向かう力、人間性等をどのように育成するかについて協議を深める。経験年数にかかわらず、教員自身が学び続ける姿勢を大切にし、その学びを生徒の成長につなげていく。

(4) キャリアパスポートを活用したキャリア教育を推進、非認知能力を育成する

本校ではキャリア教育を教育活動全体の基盤としている。特別活動を中心に、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の4つの基礎的・汎用的能力と、自己肯定感や主体性、協働性などの非認知能力を計画的に育成する。キャリアパスポートを活用し、各教科、道徳科、総合的な学習の時間、生徒会活動、学校行事等で身に付けた資質・能力を年間4回振り返り、自己評価と教師との対話を通して成長を可視化する。これにより、自らの強みや可能性を理解し、「進みたい道」を主体的に選択する力を育むとともに、学習意欲の向上、学習習慣の定着及び学力向上を図る。また、特別支援学級生徒等への指導は支援シート活用の充実も図る。

3 「各授業」や「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」等における目標

- 1 各教科ならではの面白さを伝える
～教科の本質的な魅力や日常生活・社会とのつながりを意識し、生徒が「わかった」「もっと知りたい」と感じる授業を実践する。
- 2 体験的な活動を通して学ぶ意味を実感させる
～実験、観察、制作、調査、発表、協働的な活動などを通して、知識・技能の必要性や有用性を実感できる授業を行う。
- 3 発問を工夫し、生徒に考えさせる
～生徒が自ら課題を見だし、考え、判断する場面を意図的に設定することで、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 4 考えたことをわかりやすく伝えさせる
～話し合い活動や発表活動を通して、自分の考えを整理し、相手にわかりやすく伝える力を育成する。
- 5 特別支援学級における個に応じた学びを充実させる
～一人一人の教育的ニーズを踏まえ、支援シートに基づいた個別の指導計画を充実させる。各教科において「できた」「わかった」「伝わった」という成功体験を積み重ね、自立と社会参加につながる力を育成する。

学校としての目標

学力向上 全国学力・学習状況調査及び各種学力調査において、全教科・全観点で全国平均を上回る。既に全国平均を上回っている教科については、平均正答率をさらに 5 ポイント向上させる。

学習意欲の向上 生徒一人一人が学ぶ楽しさや達成感を実感し、主体的に学習へ取り組む姿勢を育成する。

実技教科の充実 各種調査や作品制作、発表活動等を通して、生徒の満足度を向上させる。

特別支援教育の充実 支援シートに基づく個別の教科指導を充実させる。一人一人の目標達成率を高める。

学年による組織的対応 学年体制で生徒の家庭学習定着、基礎学力の定着に関わる。

授業や学校生活に対する児童・生徒の満足度を向上させる。「できることが増えた」「学ぶことが楽しい」と実感できる児童・生徒を育成する。

「おもしろいから学ぶ。体験するからわかる。考えるから伸びる。伝えるから深まる。」
全ての生徒が学ぶ喜びを実感し、自分らしく成長できる学校を目指す。